

【樹木・草花の部屋】

ホテイアオイ（ミズアオイ科ホテイアオイ属 *Eichhornia crassipes*）

和名; ホテイアオイ（布袋葵） **別名**; ホテイソウ、ウォーターヒヤシンス **英名**; Common Water Hyacinth

ユリ目 単子葉植物の水草 要注意外来生物に指定されている

原産地; 南アメリカ

花言葉; 揺れる心、恋の悲しみ、恋の楽しみ

花の色; 青紫、淡紫



← 写真－1 ホテイアオイ

撮影日：2015年7月22日

撮影場所：奈良県奈良市

M邸にて

撮影者：Mさん

7月曽爾村のメダカ街道でメダカを買ってきました。

メダカを飼うのに布袋葵がよいと聞いていたので水槽に入れ育てていました。1ヶ月が過ぎ、メダカもホテイアオイも順調に育っていました。

朝、メダカに餌をやろうとしたとき、

ホテイアオイの中に花芽が出来ていました。

しばらく観察していると1時間くらいで蕾が開き始めました。夕方には綺麗な花がしぼんでいました。

調べてみると、1株が600株に、50日で1株が1000株に増えることから大害草と恐れられています。

名前の由来は、茎の根元が布袋さんのおなかのように膨らんでいることからホテイアオイとついたようです。ある所では、どぶ川をきれいにするために植え、浄化作用に使われています。また、カピパラ（巨大ネズミ）の大好物だそうです。

メダカ（奈良県曽爾村にて） ⇒

撮影日：2015年7月4日

撮影場所：奈良市

M邸にて

撮影者：Mさん

奈良県の曽爾村ではメダカの愛好家がメダカの飼育を呼びかけ、飼育する家の軒数も増え、そこをメダカ街道と呼んでいます。メダカを観賞するための観光客も増え、町おこし村おこしに役立つ



【樹木・草花の部屋】

ているそうです。

我家のメダカもホテイアオイのおかげで二世が誕生し元気で育っています。

<ちょっと一言 要注意外来生物について>

奈良県では橿原市の本薬師寺址付近の休耕田に植えられているホテイアオイが、観光名勝となり多くの人が観賞されています。これも、橿原市民が町おこし・村おこしのためにはじめられ話題になっていますが、報道ではホテイアオイの害については全く触れられていません。環境・生物多様性保全の活動している団体では、池に放置されているものを1株でも見つけたら駆除する活動を進めています。水質浄化のため、観賞用に園芸店でも販売していますが非常な繁殖力からおそれられています。飼育者にはきちんと情報を伝え、飼育後の始末を責任を持って行うようにすべきです。

影響は、在来水生植物やイネとの競合、水流の阻害、船舶の運航や漁業の障害、アレロパシー作用、虫、ダニ、菌、ウイルスの寄主。

影響を受ける生物：水生植物、イネなど

備考：外来生物法で要注意外来生物に指定された、世界の侵略的外来種ワースト 100、日本の侵略的外来種ワースト 100 に指定。（国立環境研究所侵入生物 DB より）

アレロパシー作用：あまり聞き慣れない言葉ですが「アレロパシー」というのは「他感作用」と訳されており、その定義は『植物から放出される化学物質が、他の植物や微生物・昆虫に対して阻害的あるいは促進的な何らかの作用を及ぼす現象』とされています。